

風景日付印の面白さ



米森 寿美男

手紙を書くという文化を永く残していきたいと思うのは、私だけではないと思います。

今年、あの一円切手の肖像「前島密」翁が郵便事業を創業して一五〇年という大きな節目の年を迎えました。国策として全国の郵便局網を作り上げましたが、今では日本郵便株式会社という民間の会社となっています。これから先も利用者のために郵便制度を守って欲しいものです。

平成三十一年四月二十七日、「前島密」翁没後一〇〇年墓前祭が神奈川県横須賀市の浄楽寺において盛大に開催され、大勢の参列者

の中に加えていただき、前島密翁の功績を今一度振り返る機会を得ました。その功績は、郵便関係のほかにも、江戸遷都、国字の改良、海運、新聞、電信・電話、鉄道、教育、保険など多岐にわたるとのこと、広範な知識と構想力に敬服させられました。前島密翁は三〇歳の時に薩摩藩に英語の教師として招かれ、二年間は薩摩藩士として激動の中で鹿児島でも活躍していたと記されており感慨深いです。そこで今回も郵便局での思い出話をしてみたいと思います。

一、「レタールーム」

手紙を書くための図書館のような専用の部屋があると聞き、そこを訪れたことがあります。それは宮崎市にあるホテル・シエラトン・グランデ・オーシャンリゾートです。その中には、宿泊者専用ではありますが、手紙を書くための「レタールーム」と言う部屋が

設けてあります。手紙を書くために必要な万年筆や色鉛筆などの筆記用具、写真入の葉書便せん、封筒などが用意されており、シックなテーブルが配置され、図書館のような静かな雰囲気です。

その部屋には手紙を差し出すための木製のポストが置かれており、三つの差し出し口があります。一つ目は大切なひとへの手紙(郵便局を通して配達される)、二つ目は未来への手紙(将来の自分に向けて差し出し、何年か後に取りに来て貰う)、三つ目はあてのない手紙(みんなに読んで貰うために、室内に展示される)で、その日の気分で書いて差し出すことが出来ます。私も妻宛てに書いた手紙をお願いしたところ、郵便料金は、ホテルで負担して差し出していただけとのことでした。その郵便には、ホテルの名前が入った料金後納の日付印が押されていました。

ここの施設をプロデュースしたのは「小山薫堂」さんです。FMラジオで毎週日曜日の午後三時から放送している「日本郵便 SUNDAY. S・POST」の番組に、「宇賀なつみ」さんと一緒に出演されている方です。「小山薫堂」さんは、熊本県のマスコット「くまモン」の生みの親であり、様々な番組や地域興しなど、面白い取り組みをされています。お二人の掛け合いが実に面白いですので、ぜひお聴きください。



「レタールーム」のポスト

その番組でも手紙について、色々な話を聴くことができ、中でもオリジナルの風景日付印が楽しみであることも話されています。数年前に宇賀さんが天草にこの番組の取材に來られ、一緒に飲む機会がありました。宇賀さんは何でも飲まれるようですが、焼酎もこよなく愛される愛飲家であり、何でもござれの大酒豪でした。

二、入来郵便局の風景日付印

平成六年七月に入来郵便局長に就任して、風景日付印の制作が必要であると思ひ、その材料をどうするかと言うことから入来町を掘り起こしてみました。

転勤族として、入来郵便局長に就任したので、先ずは入来町の良いところや歴史などを勉強するために、入来町の一〇か年基本構想方針を考える会「イキイキいき未来塾」に加えていただきました。このメンバーとの出

会いが入来町での生活に潤いと色々な刺激を与えてくれ、この町の良さを会員が考えて、身近にある物をどうしたらより活用できるよくなるかを考えるなど、新たに作るよりも活用する方法などを勉強させてもらいました。そんな中で入来町を二つに絞って表現することとし、一つ目は大宮神社の神舞が古くから舞われており、「十二人剣舞」の中に君が代の文句が歌われていると言う話を聞き、これを採用することとしました。二つ目は麓地区の武家屋敷群が国の伝統的建造物群保存地区の指定を受けると言うことで「入来院重朝」さん宅の茅葺門を入れてあります。三つ目は入来町の温泉です。この温泉は独特な効能があり、切り傷や擦り傷を始め、突いてきた杖を忘れて帰る程、元気になると言われていますので、これをPRすることとしました。

この写真等を郵政に送付して、平成十五年



入来郵便局の風景日付印。大宮神社の神舞、武家屋敷群の茅葺門、温泉の町を象徴する温泉マークがデザインされています。

に完成しました。なかなかの出来映えと自負していただきますので、ぜひ多くの方々に利用していただければ幸いです。

三、手紙の良さ

南日本新聞の投稿欄に、高校生が五年後の自分に宛てた手紙を書いたという記事がありました。手紙を書くことの難しさと手書きの味について、その良さを書いてありました。最近ではLINEやメールなどでほとんどの用件を済ませる様になりましたが、やはり葉書や手紙を貰うとうれしくなります。電話でも十分にお礼などを伝えられると思うのですが、電話をかけるのも気が重くなることもありま

す。その時は葉書を用意して万年筆で短く近況を書いて、郵便局の窓口で「風景日付印」を押してくださいとお願ひして差し出していきます。

これを受け取った側は、自分の宛名を見た

ときに、普通の日付印と違い珍しい風景日付印を見て、すこし嬉しく思うのではないのでしょうか。

日本郵便はこの夏から暑中見舞い葉書を廃止しました。残念ですが、官製葉書に四季の絵柄などを印刷して、その時季の思いをお届けできるようにしてはどうだろうかと考えます。町内でも絵手紙教室が開催されており、郵便局に掲出してありますのでご覧ください。年賀状だけのつながりとなっている方が増えておりますが、それでも良いのかなあと思います。

少しでも手紙を書くという文化が永く続くように祈っております。

(元入来郵便局長)

